

## IAMAS 2026

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

第24期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会



### ご挨拶

このたび、IAMAS（イアマス）は「IAMAS 2026」と題し、修了研究発表会およびプロジェクト研究発表会を開催します。IAMASは、異なる専門性を持つ人々が出会い、互いの熱に触れ合う場所です。ここでの時間は、先人たちが残した研究や作品という余熱を受け取りながら、自分の内側で新しい火を起こしていく過程でもありました。

今回の展示では、そうして生まれた修了研究の成果を発表します。あわせて、教員と学生によるプロジェクト研究も展示し、現在進行中の探究をご覧いただけます。

作品と論文、それぞれに宿る余熱を感じ取っていただき、それがみなさまの新たな予熱となることを願っています。ぜひ、会場へお越しください。

IAMAS2026実行委員長  
奥野唯織

### IAMASとは

IAMAS（情報科学芸術大学院大学）は、岐阜県の情報産業拠点ソフトピアジャパンプロジェクトの一環として、1996年に岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーとして開学し、2001年に修士課程のみの大学院大学として設立された学校です。充実した講師陣による少数定員の大学院大学として海外にも広く知られ、英文名称 Institute of Advanced Media Arts and Sciences からIAMAS（イアマス）と呼ばれています。芸術と科学の融合を建学の理念に掲げてスタートしたIAMASは、最新の科学技術や文化を吸収しながら、新しいものづくりやデザイン、先端的な芸術表現などを社会に還元する高度な表現者の育成を目指しています。IAMASの教育の先端性は、工学、デザイン、芸術、人文学など、様々な異なる分野の学生たちによるユニークな研究を生み出します。専門性を習得し、様々な知を統合し、それを新たな領域まで拡張することによって、修了後は表現者として社会における新しい領域で活動し、それを展開する能力を身につけます。

### 広報に関するお問い合わせ

取材にお越しいただく際は、件名に「IAMAS 2026 取材申込」とご記入の上、事前に下記メールアドレスまでご連絡をお願いします。

また、広報用に事前にプレス用画像の提供をご希望の方はその旨ご連絡ください。

IAMAS事務局

MAIL: [iamas26@ml.iamas.ac.jp](mailto:iamas26@ml.iamas.ac.jp)

TEL: 0584-75-6600

FAX: 0584-75-6637

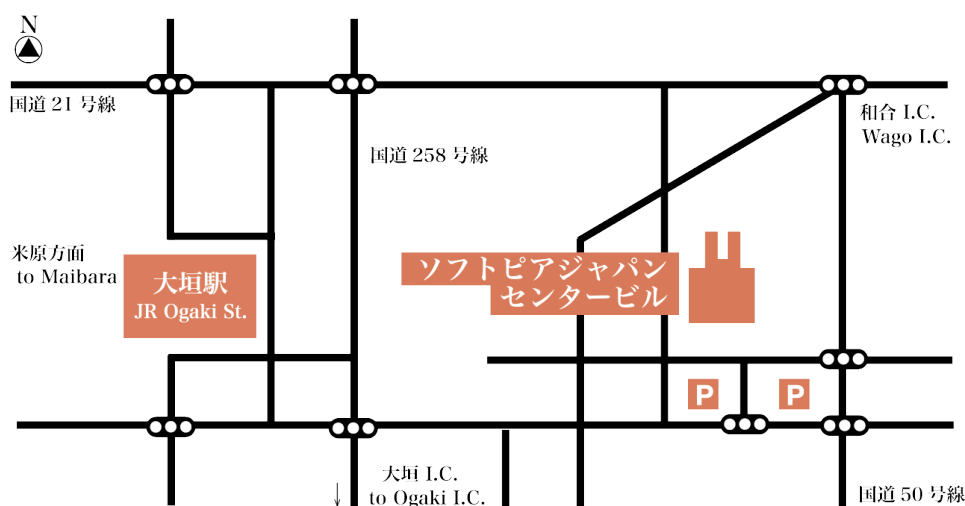
[ 日 時 ] 2026年2月20日(金)～2026年2月23日(月・祝日) 10:00～18:00 (初日は13:00開場)

[ 会 場 ] 〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地7 ソフトピアジャパン・センタービル/ワークショップ24

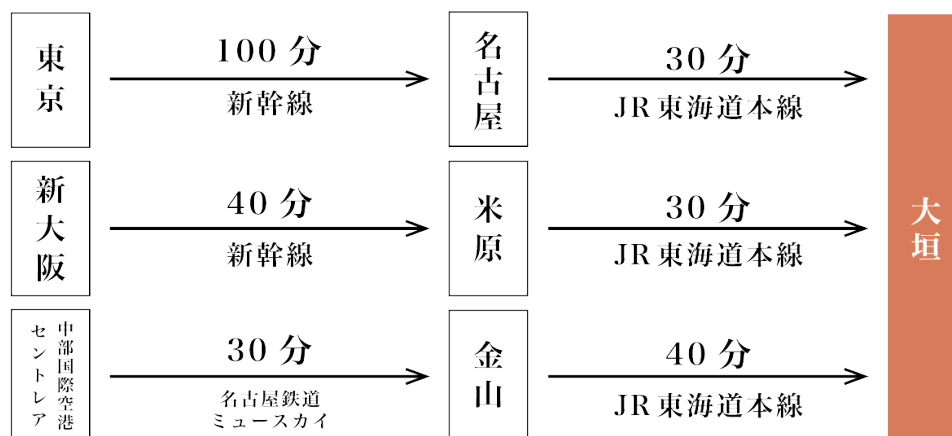
[ 公 式 サ イ ト ] <https://www.iamas.ac.jp/exhibit26/>

[ 主 催 ] 情報科学芸術大学院大学[IAMAS]

[ 会 場 周 辺 地 図 ]



[ 乗 換 案 内 ]



## 祇ノ竜

Shi no Ryū



祇ノ竜は、複数モニターとペップァーズゴーストを用いた映像装置と数枚のパネルから構成される「マルチコマディスプレイ」により、漫画表現を空間的に拡張した映像インスタレーションである。モニターをコマと位置付けることで、コマが有している機能とそれに伴う表現を物理空間に拡張する。竜はコマ内部に独立する空間を越境できる存在であり、その超常的な特性により異なる時代を往来する物語は鑑賞者に時間と空間の再構成を促す。

### 細野竜矢

2000年神奈川県生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科を卒業後IAMASへ入学。漫画制作の経験からコマが有する機能とそれに伴う表現に関心を持つ。映像装置を用いたインスタレーションの制作を通じて、それらを物理空間に拡張する実践を行なっている。

## 資料展示：「状況（に埋め込まれた多様な他者）との対話」としてのデザイン

Research Report: Design as Conversation with (the Diverse Others Emerging from) Situation



デザインは「状況との対話」の連続です。しかし、その対話の「相手」とは具体的に何でしょうか。本研究は、スケッチ、素材、制約、概念など、デザインの現場で発見される多様な対象を「状況に埋め込まれた他者」と定義しました。多様で非・人間的な存在がいかにして自律的な「他者」として現れ、制作に転換をもたらすのか。ショーンの対話理論とボランニーの暗黙知理論を統合し、創造性の源泉となる対話を可視化します。

### 美濃佑輝

1999年生まれ、兵庫県出身。教育学部で工学系の研究室に所属するも技術的視点に限界を感じ、学際性を求めIAMASに入学。在学中にデザイン研究に可能性を見出し、現在、ハードコアなデザインプロセス分析に挑戦中。東北大学教育学部卒業。

## 喫茶 ポストモダニストコーヒー

Postmodernist Coffee



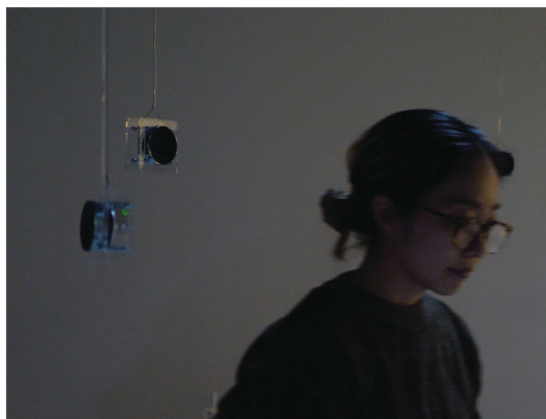
ささやかな記憶が、どのような形で息づき続けられるのかを探る実践です。

### 雨宮由夏

東京都出身。ドローイングを起点に、生活の断片や小さな感覚を拾い上げ、ミックスメディアで作品を制作しています。

## できるだけ合わせず、なるべくすれ違う

To encounter as we are, rather than to become homogenized



本作は、自己の形成に繋がるような他者との出会いが失われた現代の「同質化社会」に対し、自己を揺るがし変容させるような出会いを誘発する「庭」として提示する声の参与を伴うサウンドインスタレーションである。鑑賞者はスマートフォンを介し同質化社会に関する議論に参加する。多様な参加を受け入れ、わたしとあなたが揺さぶりあうことで中動的な関係性が生成され続けるこの「庭」は、同質化社会への対抗となりうるだろうか。

### 兒島朋笑

2001年生まれ。富山県出身。玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科卒業。クマ財団8期生。作曲で培った構築的な手法を基礎に持ちつつも、作者の予測、制御を超え、鑑賞者の介入によって予期せぬ変容を遂げる側面に惹かれ参加型アートの制作をはじめ。

## Episologs



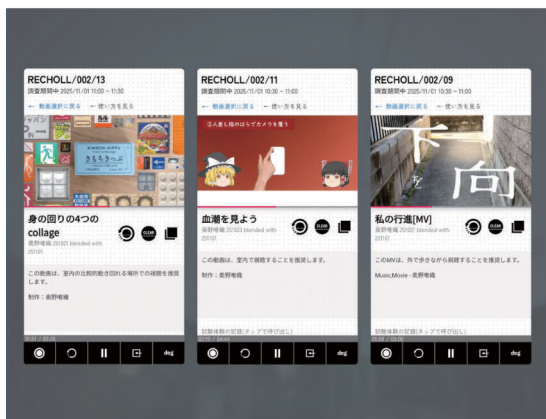
「エピソード」とは、記録から過去のとある一日を思い出して書き、公共の場でシェアする日記を意味する造語である。本作品では、書かれたエピソードは感熱紙に印刷され、透明な箱に入れられる。箱の中のエピソードは、自由に手に取って読むことができる。匿名性や偶然性を伴う仕組みのなかで、他者との比較や反応を目的としない語りが生まれる場をつくる。

### 牛尾日莉

日記を書かないときもある。日常記録を振り返り、共有することに関心を持っている。

## 動画配信プラットフォーム《RECHOLL》

Video Streaming Platform RECHOLL



《RECHOLL》は、動画の一部を切り抜き、視聴者のカメラ映像をリアルタイムで重ねる動画配信プラットフォーム。注意が画面と現実環境のあいだを往還する構造を組み込み、アテンション・エコノミー的な視聴設計を批判的に再検討し、環境や身体の動きとともに生成される新しい視聴体験を提示する。

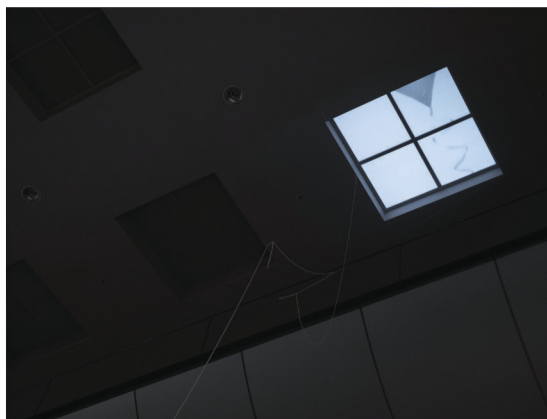
### 奥野唯織

広島県 廿日市市生まれ。人の関心や注意が経済的な資源として扱われている現代において、人とプラットフォームを媒介するデジタルコンテンツの届け方・届き方における、指標化されない価値を模索している。竹を割ってような性格。



## 空を飛ぶことなんてできない

Can't fly me to the sky



風糸が絡まっている、木に絡まり、電線に絡まり、風に絡まり、影に絡まり、記憶に絡まり、そして自身に絡まっている。

### 賈慷誠

2000年、上海生まれ。

文に疎く、武にも縁なく、ただ白日夢をたよりにここまで来ました。

## Sphere(s)



この装置は同じ動きを繰り返す。視覚だけを頼りにすれば、単調で無機質な反復運動にすぎない。しかしその動きに付与される「音」だけが変化し続けることで、その様相は大きく変化する。時に重く、時に軽やかに見えることもあれば、白い球が他のものにさえ見え、白い球はあらゆるものへと変容していく。本作品は、音によって視覚的現実がいかに揺らぎ、豊かに再構築されうるかを提示し、私たちが信じる現実の確かさを問いかける。

### 榊原礼彩

慶應義塾大学環境情報学部卒。音や動きを用いた作品を制作する。

## かわいいかくれんぼ

Do you see "me"?



本作は、痛みや欲望を抱える「リアルな身体」と単純化された「キャラ化した身体」の対比される2つの身体をテーマに、長時間のパフォーマンスで表現する。憧れの身体との重なり合なさや、身体の不恰好さ、繰り返される機械的な動きによる「滑稽さ」を見せながら、長時間行われることによる肉体的疲労・執着・記録の蓄積を他者と共有するパフォーマンスを披露する。

### 佐藤杏南

2002年、福島県生まれ。

## あなたの中に響くわたしの声

My Voice Heard Inside You



本作品は、さまざまな話者の話し言葉の音声から抽出した〈韻律 / speech melody〉を、話者の個性が宿った個人言語として聴く作品である。単なる録音や録画を視聴するときよりも、「どのように話しているか」に傾聴しながら、複数の韻律を聴き進める。そうすることで、それぞれの個人言語の差異が際立ってくる。

早田仁知

名前が「にち」なのは日曜日生まれだから。幼稚園の頃の将来の夢は「漢字博士」。文字好きが高じて言語学の世界へ。推し文字はターナ文字、次いでオル・チキ文字。好きな発音は無声歯茎鼻音。

## one day ///tokyo (neo/x)



かつて過ごした街“東京”の記憶を、AIとの協働によって呼び起こし再構成した映像作品。作者は、AIが生成したイメージを、撮影行為を通して自らの記憶と結び合わせ、そこでみつけた「記憶の断片」を手がかりに、久々に東京を再訪する。実在の場所とAIと見出したイメージ、過去と現在のあいだで、ゆらぐ記憶をたどり、その過程で不意に塗りかわってしまう記憶の変容を鑑賞者に共有する。

中岡孝太

滋賀県生まれ。大阪市立大学商学部卒。ソニー・コンピュータエンタテインメント、テレビマンユニオン、中京テレビ放送などを経て、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]（またの名を「人生のサービスエリア」という）にビットイン。

## 物のイメージ

The Things as Representation



デジタル画像加工技術や生成AIの普及により写真の指標性への信頼が崩壊した現代において、写真メディア環境の変化が画像の見え方だけでなく、物理的な“モノ”の見え方さえも変容させたことを知覚させるインスタレーション。かつて「写真的に見えること」と「実在を確信すること」は繋がっていたが、現代ではその関係が切断されている。そのため、写真的だが実在している違和感から、物体固有の生々しい存在感が立ち現れる。

中村駿

2001年金沢市生まれ。メディアを介することで現れるおかしみを色材と光学装置を用いて探求する。視覚芸術作家、デザイナー。

## モラルITデッキ：アスペクト時間論導入版

Moral IT Deck: Aspect-Temporal Theory Edition



クリエイティブ・コモンズに属する『モラルITデッキ』に説明文等を追加して改変し、ワークショップスクリプトと組み合わせた高校情報科授業用ツール。非研究・開発者でも身近なテクノロジーのELSI検討とRRI思考を促進できるよう、スクリプトに「アスペクト時間論」に基づく分析枠組みを導入し、教員向けスクリプトと生徒向けデッキとして構成している。

### 松井 光寿

高等学校教諭一種免許状(英語)を所持。学部ではメディア論を専攻し、大学院では多様な専門領域の学生との交流を通じて、非制作者的視点から異なる分野をつなぐハブとしてテクノロジーの多角的理解を促進するための研究を行った。

**IAMAS**  
**2026**  
2.20(金)-23(月)

X : @iamas\_exhibit

Instagram : @iamas\_exhibit

Facebook : @IAMAS.GraduationExhibition

Note : @iamas\_exhibit

Youtube : @iamas-exhibit